

<実習目的・目標・方法一覧>

	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎Ⅳ	地域・在宅Ⅰ	地域・在宅Ⅱ	成人・老年Ⅰ	成人・老年Ⅱ	老年	小児	母性	精神
目的	健康を支えるための多様な看護活動を理解できる。	療養生活を送る対象との言語的・非言語的コミュニケーションの実際を理解できる。	対象の基本的ニーズを踏まえた日常生活の援助を理解できる。	根拠に基づき看護を実践する能力を養う。	保健活動を通して、地域で生活するあらゆる健康の状態・発達段階にある住民への看護支援を理解できる。	在宅で療養する対象（療養者・家族）とその対象を取り巻く環境を理解し、対象の健康状態や生活背景に応じた看護が実践できるための基礎的能力を養う。	周術期にある対象とその家族（重要他者）の特徴を理解し、生体反応や手術侵襲からの回復促進と対象の変化に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。	慢性期にある対象とその家族の特徴を理解し、対象が健康状態を維持・改善しその人の生活と折り合いをつけながら健康障害とともに生きていくことを支える看護を実践できる基礎的能力を養う。	地域で生活する高齢者の特徴を理解し、その生活を支え、その人らしく生活するための看護を実践できる基礎的能力を養う。	成長・発達し続ける子どもと家族を理解し、各健康段階に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。	周産期にある対象の身体的・精神的・社会的変化や適応過程を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。	精神に障害のある対象を理解し、健康段階・暮らしの場に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。
目標	1 地域の人々の生活の場に、多様な看護の場があることを理解できる。	1 環境整備や日常生活援助場面等をおして、療養生活を送る対象や家族の思いに関心を寄せることができる。	1 症状、治療、検査、入院等の影響を踏まえた対象の日常生活を理解できる。	1 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を系統的に収集することができる。	1 地域で生活する人々の生活観光と健康状態を理解できる。	1 訪問看護ステーションの概況及び特徴を知り、役割・機能が理解できる。	1 術後合併症の予防に必要な看護を理解し、回復過程を支援できる。	1 長期的な治療の継続や自己管理を促進する看護援助を理解できる。	1 加齢現象や健康障害のある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。	1 対象の身体的・精神的・社会的特徴に応じた成長・発達を理解できる。	1 対象の妊娠・分娩・産褥・新生児期の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。	1 精神に疾病・障害をもつ人を、身体・心理・社会的な側面、及びストレスの視点を用いて全人的に理解する。
	2 健康段階に応じた看護活動の場、機能及び役割を理解できる。	2 対象の思いや考えに影響を与える因子を考えることができる。	2 対象の基本的ニーズに応じた日常生活の援助計画を立案できる。	2 得られた情報を整理、分析、解釈することができる。	2 地域での暮らしを継続するために必要な制度及び事業の目的や意義を理解できる。	2 訪問看護を受けている対象の特徴と生活状況に合わせた看護の必要性が理解できる。	2 周術期にある対象とその家族（重要他者）の心理社会的側面を理解できる。	2 健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質（QOL）の維持・向上に向けた支援を理解できる。	2 地域で生活する対象の健康の保持とQOLの維持・拡大を図るための援助の実際を理解できる。	2（治療や健康段階の影響を踏まえ）成長発達段階に応じた基本的生活習慣の獲得を促す援助を理解できる。	2 母子の愛着形成や親役割獲得過程を促進する援助の実際を理解できる。	2 精神疾患を持つ人と、リハビリの過程に応じた治療的対人関係を構築するプロセスを理解し、その人らしさを支える援助方法を理解する。
	3 看護学生として望ましい態度を取ることができる（言葉遣い、身だしなみ、主体的な学習姿勢）。	3 対象が話しやすいコミュニケーションが用いることができる。	3 立案した援助計画が実施可能であるか看護師と共に判断し、安全・安楽を考慮して実施できる。	3 根拠に基づき対象者の状況に応じた看護計画を立案できる。	3 地域における継続看護の必要性が理解できる。	3 訪問看護を受けている対象を尊重した援助関係形成の重要性が理解できる。	3 身体の状態や機能の変化が退院後の生活に及ぼす影響と必要な社会資源について考え、継続看護の必要性を理解できる。	3 長期的な治療や自己管理が生活に及ぼす影響と必要な社会資源を考え、継続看護や多職種連携の必要性を理解できる。	3 対象の人生経験や価値観を尊重し、関心を寄せかわることができる。	3 小児各期に起こりやすい事故を理解し、事故を予防することができる。	3 妊娠・分娩・産褥期及び新生児への切れ目のない支援の実際と多職種連携を理解できる。	3 精神の障害とともに地域で暮らす人に必要な支援と多職種連携と看護の役割を理解できる。
		4 コミュニケーションが対象に与える影響を振り返ることができる。	4 対象の反応をおして、実施した援助技術を評価できる。	4 立案した援助計画が実施可能であるか、理解できる。	4 地域における関係機関や職種との連携・協働の実際を理解できる。	4 訪問看護を受けている対象の状態に応じた安全管理の必要性が理解できる。	4 対象や家族（重要他者）が行う意思決定と看護師の意思決定支援を理解できる。	4 対象や家族（重要他者）が行う意思決定と看護師の意思決定支援を理解できる。	4 対象の安全な生活の実現に向けて、家族や多職種との連携の実際を理解できる。	4 子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉・教育の実際と、多職種連携を理解できる。	4 母性観・父性観を考察できる。	5 専門職業人としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。
		5 看護学生として望ましい態度を取ることができる（情報管理、言葉遣い、身だしなみ・主体的な学習姿勢）。	5 看護学生として望ましい態度を取ることができる（情報管理、言葉遣い、主体的な学習姿勢）。	5 対象の安全・安楽及び自立の促進を考慮して看護援助を理解できる。	5 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。	5 在宅で療養する対象の生活の質（QOL）の維持・向上のための社会資源の利用の実際や在宅看護における多職種との連携を理解できる。	5 看護理論や危機モデルを用いて、周術期にある対象がたどる心身社会面の経過とその看護援助を述べることができる。	5 看護理論を用いて、慢性期にある対象がたどる心身社会面の経過とその看護援助を述べることができる。	5 対象とのかかわりを通して、自己の老年観を養うことができる。	5 小児看護における倫理的実践（説明と同意、養育者を含めた意思決定支援）を理解できる。	5 周産期看護における人権や倫理的課題を理解できる。	6 実習での学びと自己の課題が明確にできる。
				6 実施した看護援助を評価し、看護計画を修正できる。		6 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。	6 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。	6 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。	6 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。	6 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。	6 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。	
				7 専門職業人を目指すものとしての自覚を持ち、チームの一員として行動できる。								
実習時間	1 単位45時間	1 単位45時間	1 単位45時間	2 単位90時間	2 単位90時間	2 単位90時間	2 単位90時間	2 単位90時間	2 単位90時間	2 単位90時間	2 単位90時間	2 単位90時間
うち臨地実習時間	40時間	45時間	45時間	90時間	90時間	90時間	90時間	90時間	90時間	90時間	81時間	90時間

<実習E

	統合Ⅰ	統合Ⅱ
目的	保健・医療・福祉チームにおける看護師の機能と役割を理解し、対象者を含むチームメンバーと連携・共有・再検討しながら看護を実践するための能力を養う。	保健・医療・福祉チームにおける看護師及び多職種機能・役割を理解し、対象者を含むチームメンバーと連携・共有・再検討しながら看護を実践するための能力を養う。
目標	1 看護の機能と看護管理の実際を理解できる。	2 対象者を取り巻く保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解できる。
	2 複数の対象に必要な看護を実践できる。	3 対象の多様性及び疾病構造の変化に対応する人的資源及び社会資源を理解できる。
	3 専門職業人を指すものとして、必要な基本姿勢と態度を取ることができる。 1) 看護倫理に基づき行動できる。 2) 自己評価及び他者評価を踏まえた学習課題を見出すことができる。 3) 課題解決に向けて必要な情報を収集し、確信がもてないことは相談できる。 4) 約束事を守ることができる。	4 多職種連携で求められる看護師の役割を理解できる。
		5 専門職業人を指すものとして、必要な基本姿勢と態度を取ることができる。
実習時間	2単位90時間	1単位45時間
うち臨地実習時間	90時間	45時間